特113
231

國人に見せることは遠慮せられたし

現代の禍根

完

特113
231

緒言

マッソン秘密結社は謀反團なり。其標榜は自由平等博愛人道に在るも、其裏面は民衆を煽て秩序を破り、貧民を唆して富豪を倒し、制度を改めて官民、政黨の爭鬩を促し、終に君主國を崩潰して全世界共和國を建んとする陰謀團なる事は、天下周知の秘密なり。世界大戰に由り歐洲列國に對しては既に其効を奏し、今日君主國の名を存する者も内實は皆な民主共和國と異なる所なし。今や彼は其手を我國に延はし、一面には支那民衆を煽動して日本を孤立に陷れ、一面には我か學者政治家を欺きて民衆を誘惑せしめ、以て我をして獨露の覆轍を蹈ましめんとす。近來不逞の徒頻發し、未聞の惡逆を企つるは其原因此に在り。吾人は此の思想惡化の原因を初め西洋學説に歸し、次にマッソンに歸したり。此頃包荒子著世界革命の裏面を讀

15. 9. 29
内交

むに及て、西洋學說もマッソンも皆な猶太の傀儡に過ぎざることを知り、吾人の不明を愧ると共に其對應策を講ずるの益す緊急なるを覺り、茲に此小册子に拔萃することゝ成れり。大方の讀者諸君幸に查閱を賜ひ且つ其防衞策を誨へ給はゞ豈に獨り編者の幸慶のみならんや

大正十五年九月　編者誌

現代の禍根目次

第一章　猶太民族の現勢力……1
第一節　世界經濟界の覇權……1
第二節　思想操縦機關……5
第三節　政治界に於ける活躍……8
第二章　猶太略歴……10
第三章　猶太魂と其宗教……13
第四章　猶太政策……17
第一節　巴里及プラーグ會議……17
第二節　シオン議定書の由來……23
第三節　シオン議定書拔萃の一（總体）……26
第四節　シオン議定書拔萃の二（思想）……29
第五節　シオン議定書拔萃の三（言論機關）……31
第六節　シオン議定書拔萃の四（經濟）……33

第七節　シオン議定書拔萃の五（理想國）……37
第五章　結　論……38
附　錄
マッソン秘密結社
第一節　マッソン社……42
第二節　マッソンと猶太との關係……45
第三節　マッソンと帝冠墜落……46

現代の禍根（講演草稿）

第一章　猶太民族の現勢力

第一節　世界經濟界の覇權

世界經濟界に於ける猶太人の勢力が頗ぶる强大であるといふ事は、誰も知つて居る事であるが、其の事實を調べて見ると、益々其の偉大なるに驚かざるを得ない。此の大財力を得たのは、彼等の古來の境遇と國民性との結果にて、彼等は各國に分散寄生して居ながら內面は互に氣脈を通じ其の住國に對する愛國心なく、一意專心唯だ財物を殖やす事のみを謀り、其經典に示す如く

一、非猶太人の黃金は汝等の所有なり

一、四海の富は悉く汝に向ひ、諸國の倉庫は汝の許に集められん

一、此の世の第一の力は金なり

との神敎を忠實に守り此に至つたものであらう。尤も其の共同團結、質素勤勉、剛健不撓の努力も亦た其の致富の大原因たる事は無論である。

右の如く猶太の拜金は三千年來の國民精神である。目的の爲に手段を選ばず、鋭意黃金

第一主義を實行し、殊に近代に至り其の財力著しく發達し、前世紀以來、歐洲各國は猶太人に相談せねば戰爭が出來ないといふ程に成つて來た。戰爭は財界に大變動を起すものゆゑ、此の機會は猶太人の最も利用する所である。既にナポレオン時代に於ても、猶太人は敵味方の間に介在して利得を計り、ロスチャイルド、シッフ、スペイヤ等の財閥を出し、其の後革命亂又は戰爭ある毎に、それを利用して金儲を爲したから、昔時より歐洲人は「鮮血の財寶」と謂て之を排斥した。實に戰爭と革命とは彼等の寶にて、國家は疲弊し借金で首が廻らぬ樣に成つても、獨り猶太人のみは其の間に在て大成金と成るのである。此世紀の初、佛蘭西猶太人二十萬人の財產が佛國民四千萬人の總財產の二倍に成つたのは全く佛蘭西革命のお蔭であると云つて狂喜した。自國の顚覆するのを見て、祝杯を擧げる樣な人民を、肥やして置く國には成ともないではないか。

先般の世界大戰も猶太財閥の不承知から、數回戰爭の勃發が延期せられた事は、歐米にては知れ渡つた事實である。近頃ロスチャイルド家より獨逸カイゼルに宛て開戰延期を勸告した手紙(一九一一年附)が發見せられたる事實あり。是れは過早の開戰は財界の影響小なるゆゑ、之を延期して戰爭參加國の範圍を擴張せんが爲である。現今獨逸先カイゼルは「獨逸を亡ぼした者は猶太なり」と憤慨して居らるゝ由なれども、大戰當時は流石のカイゼ

ルも猶太人ラチューナを重用して軍用品の經濟を維持せられた。面白い事には獨逸に缺乏した糧食、軍需品が敵國露西亞方面から何時となく這入り來るを見て悦んで居たが、其代り獨帝の提供した、金銀財寶は戰後點撿すれば悉く猶太人の倉庫に這つて居たと云ふ。此の大戰に於て猶太人が「鮮血の財寶」を殖したことは驚くべきものである。露國を横領し、各國の支出金を大概吸收し、戰敗國たる獨逸に於てすら、戰前猶太人は獨逸全財產の百分の三しか有せざりしものが、今日は其の百分の七十五を懷に入れ、一般獨逸人が衣食にも困窮して居る中に在て、猶太人のみは王侯の榮華を極めて居る。此の大戰中、全猶太千三百萬人の利得實に二千億圓(一人平均壹萬五千圓餘)に下らず、今や全世界黃金の二分の一以上彼等の懷に在りと云ふ、彼は世界の最大財閥である。

今日猶太人は露、墺、獨、佛、伊の經濟を制し居るは勿論、世界經濟の中心市場たる倫敦取引所は既に其勢力下に屈服し、紐育取引所も漸次蠶蝕せられ今や其大勢力と成つた。英米兩富國すら斯の如し、矧んや其他に於てをやである。

過般「無冠の獨逸王」として其死を傳へられたるスチンネスは、其の猶太人たることを知つて書いたか、否やは分らぬが東京朝日新聞に左の如く記載して居る

世界大戰は各國に幾多の偉人を生み、一種の英雄政治を復活せしめた、スチンネスは戰後

獨逸が生んだ經濟的英雄である。彼か現在經營しつゝある事業は、鐵、石炭を中心とし航運、鐵道、木材、製紙、製藥、新聞、電氣、自動車、旅館、土木等百般に渉り、獨逸經濟生活に對する彼の勢力は、足一度獨逸の領土に入る者は直接間接其恩惠を蒙らずして一日も暮すことは出來ないといふ程である。經濟的王者は社會的王者である。彼は伯林政界の蔭に隱れ、歷代內閣の首相を繰つて居る、事實上の執政なりと稱せられて居る。獨逸新聞は「ウィルト內閣を崩潰せしめ、共和國の礎石に巢くふ蛆蟲」と罵り、新首相クノー氏が議會の演壇に立つや「スチンネスの代辯者」との彌次が起つた。スチンネスの人物に對しては「全國民を奴隸化せんとする惡魔」とか「獨逸を救ふ救主」とか毀譽褒貶區々なるも、獨逸及聯合國を惱ませ居る賠償問題の解決には財界の王者たる彼の協力に俟つこと多大なるは勿論にて、時節柄其重態說は國の內外に尠からぬ衝動を與へるだらう。

（大正十二年四月十四日記事）

前述の如く經濟界に於ける猶太勢力は最早絕對の地位を占め、財界の景氣、不景氣、金融の緩急、貨幣物價の騰落、生產の過不足、生活の難易等凡て經濟界の波動は悉く彼の操縱に委し、殆んど如何ともする能はざる形勢である。我國に於ても已に國際的經濟渦中に入り、現實に其の喜憂を体驗したのである。尙ほ此上にも彼の惡辣なる政策に飜弄せられ、

遂に國家を破産狀態に陷れることは、吾人の忍びない所である。吾々は素人にて此方面には不得手であるが、何卒爲政者は素より農工商の當局者は、能々後章の猶太政策を玩味し國家を濟ふの對抗策を建てゝ貰はねば成らぬ、實に今日は國家興廢の危機である。

第二節　思想操縱機關

猶太人の理想は世界統一猶太王國を建てるのである。其方便として先つ不倶戴天の仇と憎み居る。基督敎國の民心を攪亂墮廢せしめ、奢侈、淫蕩、放縱、享樂に耽らしめ、夫より來る生活難を利用し、又た自主、自由、平等、解放の念を貧賤に吹込み、人民をして不平、不安、騷亂、無秩序の恐怖時代を現出せしめ、其の結果、疲弊困窮の極、終に生存すら脅かされ、止を得ず富有なる猶太人に投じ來るを待て、人心を收攪し、全世界の救濟主と成りて世界を統轄しやうとして居る。是れ後章の猶太政策に明示する所である。今左に人心を頽廢せしむる機關中其の主なるものを揭ぐべし。

出版物　今日世界言論機關の九割は猶太人に握られて居る。それ故世界の輿論と稱するものは多く彼等に依て製造せられ、宣傳せられて居る。最近死亡した獨逸猶太スチンネスは單獨にて六十餘種の新聞を經營し、墺都維納の新聞界は西暦第十八世紀末に既に猶太人の手に歸して居た。先年露國大新聞記者を集めたるに四十二名中四十一名は猶太人で

あつた。米國新聞も三十年前迄は非猶太人經營のものが有つたが、其後段々猶太人の手に入り、最後に紐育ヘラルド紙すら硬骨社長ベネットの死後、西曆千九百十八年買收せられて猶太紙となり、今は紐育に猶太系以外の新聞は一社も無い事になつた。勿論歐米新聞雜誌中、非猶太經營のものも無きには非ざれど、猶太資金の入らないのは絕無なりと云ふ。それ故歐米新聞を見て、世界の輿論とか、亡國の叫びなど〻早合點しては成らぬ、國際的老狐の作る言論は、眉に唾して讀まねば成らぬ。

猶太には優秀なる學者藝術家が居て、全世界の思想界を攪亂す。今日世界に有名にして日本の學界にも重んぜられて居る猶太人を擧れば左の如し、

マルクス　ラッサール　メンデルスゾーン　アインシュタイン

ハイネ　エヂソン　ワグネル　ワイズマン　等

此等の學說を受賣して、物識りらしく誇り居るお目出度い學者のあるには困つた者である又之を聞て雷同する書生や、勞働者のあるには倘更ら困つた者である。

現今歐洲に於て、政治、產業、財政、敎育其他の社會問題に於て所謂文明の行詰を露出して居るのは、其源を猶太言論機關に發して居る。然るに我國の洋醉者は之を知らずして相變らず、歐米學說の糟を啜り、好んで彼等の流布する毒瓦斯を吸ひ、自由とか、平等と

か、解放とか、戀愛とか、享樂とか、藝術とか、舞踊とか、競爭とか、互に新しがり、自ら猶太の術中に陷りつゝあるを知らぬ者が鮮くない、實に危險の極である。吾人は何處迄も敎育勅語と戊申詔書に遵ひ、我が臣民の思想を統一せねばならぬと思ふ。

活動寫眞と芝居

活動寫眞は近代の流行物である。米國に於て青年男女の惡化は其原因多く活動寫眞に在りと謂はれて居る。編者も過日實況視察の爲め、見物に行きたるに、其映畫の淫褻滑稽なるに驚き、成る程、是れでは青年を毒すわいと首肯きたり。米獨のフイルムは殆んど全部猶太人の製作にて、之を輸出して盛に墮落を奬勵す。初め米國警察にては不良の映畫を防ぎ淫蕩演劇を取締らんとしたが、猶太の金力と勢力とに制せられ、背德認可の現狀と成つたといふ。今より三十年前紐育に活動寫眞館主の大會が有つたが、出席者五百人中、猶太人で無い者はブリンガム博士唯一人なりしとは同博士の述懐である。歐米演劇も亦た大概猶太人の占領物にて、思想誘惑の毒藥、淫蕩、滑稽の挑發物として利用し、非猶太人の財布を絞る道具と成つて居る。其外舞蹈場、飮食店、百貨店、其他の享樂機關は皆な奢侈、贅澤遊興の利器として用ひられて居る。

吾人は西洋の學說並に享樂機關を拒絕する者では無いが、猶太人の目的が墮落誘惑に在りと知りては殊に警戒を嚴重にせねば成らぬ。今日都會地の狀態にては青年男女は自然之

に耽溺し放縦、惰弱、淫靡なる遊民となり、何時となく猶太化するのを恐るゝのである。それ故出版物並に興行物に就ては其筋の嚴密なる監査取締を勵行し、我が國民精神の作興に利用する様に致したいものである。

第三節　政治界に於ける活躍

近代に至り政治界に於ける猶太人の活躍は、驚くべき發展を爲して居ることは左に列記の猶太人を瞥れば明かである。

英國宰相	ビーコンスフィルド卿
同　大藏大臣	スノーデン
同　內務大臣	ベンータソン
同　勞働大臣	モンド
印度總督	レデング卿
佛國大統領	ミルラン
同　總理兼陸軍大臣	バンルベー
同　大藏大臣	クロック
獨逸大統領	エベルト
同　外務大臣	ラチューナ（暗殺セラル）
同　中心人物	スチンネス
同　同	シャーデマン
墺國外務大臣	エーレンタール（大戰導火）
伊國外務大臣	ソンニノ
同　同	シャンツェル
露國高等官殆全部	

戰後ヴェルサイユ平和會議の委員及相談役は多く猶太人なりしゆゑ佛蘭西人は其の會議

を猶太會議（コーシア）と言つた。國際會議事務總長ドラモンド、支那政治顧問シンプソン、日本駐在獨逸大使ゾルフなども亦た猶太人である。斯の如く猶太人は世界支配階級中に散布して其の勢力を振ひ、就中露獨兩國に在ては左表に示す如く既に徹底的に支配權を握つて居る

獨逸革命政府に列したる猶太人

外務大臣	ハーゼ
外務次官	カウツキー
新聞局長	コーヘン
司法大臣	コーン
司法次官	ヘルツフエルド
大藏大臣	シノフエル
大藏次官	ベルンシュタイン
內務大臣	プロエス
內務次官	プロエント
備考	普魯西政府の司法、大藏、內務、農商務、文部の各大臣は皆な猶太人にして、其外バイエルン大統領を始め聯邦諸國の內閣に多數の猶太人あり

革命露西亞の支配階級

主なる國家機關	代表的役員總數	役員中猶太人
人民委員會	22	18
軍人委員會	43	35
內務省	64	45
外務省	17	12
大藏省	30	26
司法省	19	18
文部省	53	46
新聞雜誌記者	42	41
國民經濟會議	55	44
地方コムミサール	33	21
赤十字代表者	8	8
社會救護委員會	6	6
職業委員會	8	8
舊制度國家事業調査委員會	27	5
都市復興委員會	22	20
第四回全露勞兵代表會議	34	33
第五回全露勞兵代表會議	61	42
SR社會國家勞働中央委員會	12	10
計	545	447
備考	總計五百四十五名中露人は三十一名に過ぎず他の六十七名は波、チェ、獨等の外人なり	

尙ほ英佛米伊等に在ても、猶太人の財力が發展すればする程、危險思想が年々增加すると云ふ。實際革命の背後には必ず猶太人が居る。猶太人の蔓る所には必ず帝王の冠が墜る

一、佛革命亂に路易十六世の死刑執行者は猶太青年サムソンである。

一、世界大戰に点火したサラエヴォー墺世子殺害者は猶太人プリンチップである。

一、エカテリンブルグ露帝一族慘殺者十六名中、十一名は猶太人である。

猶太の標榜する自由、平等、解放の三大綱は其の完備した宣傳機關に依り、世界の隅々迄行亙り、世界崩壞の思想は驚くべき効果を奏し、今や猶太人は世界思想の支配者と成つた。我が國に於ても右三大綱の爲め、思想界に混亂を生じ、大不敬事件、共産事件、勞資問題、小作問題、政治問題等に大影響を蒙り、彼等の術中に陷りつゝあるは遺憾千萬の事である。或る外國人の語に「猶太人の世界的勢力を閑却して、社會萬般の世相を論ずるは群盲が巨象を摩して評するに等し」と云つて居るが實に至言である。

第二章　猶太略歷

猶太人に元來メゾポタミヤの住民にて牧畜を業とし、エホバ一神敎の信者であつた。然るに此地に於て多神敎徒の迫害を受け、信敎の自由を得ることが出來ないので、酋長アブ

ラハムに隨てパレスタインに移りたるは西紀前二千年頃の事である。然るに此處にても亦た多神敎徒と衝突し、爭闘絶ゆる時が無かつた。斯くしてヤコブの時に至り、其の末子ヨセフが諸兄に嫉まれ井の中に投込まれたが、幸に旅人に救はれ埃及に賣られた。埃及王はヨセフの賢明なることを知り、重く用ひて後ち宰相とした。其後ヨセフはパレスタインに歸省して見ると猶太民族は他民族の爲めに頗る虐待せられて居たから、之を視るに忍びず西紀前一五三〇年全族を率ひてナイル河口に移住し安泰に暮した。其後二百年程經て猶太人は復た埃及人より壓迫せられ信敎の自由を得ず、憤懣の折柄、埃及王から蘇士築城の課役を命せられた。そこで族長モーゼは之に從はず、終に其全族を率て亞剌比亞シナイ山下に移り同山上にて神より十戒並に經典を受け、更にパレスタインに歸らんとしたが、果さずして死んだ。

モーゼの子ヨシュア父の志を繼ぎパレスタインを征し歸鄕したるも、國内紛亂して治らず、ソールを立て王とした。ソールの嗣王ダビテ英明にてイェルザレムを王城として文武の政を勵み、威風四隣を壓す。其の子ソロモン父の志を繼ぎ政務を務め、商業貿易を盛にし國利を進め、壯麗なる禮拜殿堂を建て一時隆昌を極めたが、晩年驕奢に耽り民望を失し、國民の不滿裡に死亡し、同時に内亂起りて政敎南北に分離した。

南猶太はイェルザレムを都とし、北イスラエルはサマリを都としたが、南北共にアシリアとバビロンとに亡ぼされ、ソロモンの殿堂は燒かれ、貴族はユーフラット河畔に移された。後ち波斯王の次世と成りて、歸國を許され殿堂を再建した。

西紀前三二二年歷山王に征服せられ、次て暫くアシリアの治下に入り、終に西紀前六三年羅馬の版圖に歸した。爾來羅馬代官の轄下に苦しみ、西紀一三五年羅馬植民政策の犧牲と成つて、全猶太人は其の故國より放逐せられた。

是に於て猶太人は鄕國を棄て四方に離散し、各國に寄寓するの止むを得ざるに至つた。爾來今日迄千八百年間此に追はれ、彼に避け、到る處基督敎徒から反逆者、亡國民、吝嗇汚穢の賤民として輕蔑、侮辱、虐待せられ、甚しきは數千人の群衆を鏖殺せられ或は住國より全部追出され、或は數千人同時に河中に溺殺せらるゝ等、殘酷悲酸の歷史を繰返して來た。基督敎徒は此虐待を以て尙ほ慊らず、彼と結婚せず、交際せず、權利を與へず、職業を制限し、住居の自由を奪ひたる等、忍ぶ可からざる虐壓を加へたるゆゑ、彼等の結束は益々堅くなり、數千年來欝積した、祖先傳來の遺恨、骨髓に徹し、剛頑執拗の惡魔と成り、復讐の念愈々深く、何時かは其の經典の示す如く全世界の主權を握り「汝を迫害せし者の子孫は汝の前に屈服し、汝を輕蔑せし者は汝の足下に跪かん」との豫言を實にせんと

し、其の手段として先づ此世界を混亂紛騒の魔界に變化し、更に全世界猶太王國を建設せんとするのである、目下は專ら世界を魔界化せんとして奮闘しつゝある場合にして其の手段も着々成功しつゝあるは讀者の實見する所である。

第三章　猶太魂と其の宗教

猶太は政敎一致の民族にて、其の信仰甚だ熱烈である。他の宗敎を排斥し今日まで四千年間一貫して毫も變ぜない、其の興亡は全く其の宗敎と關繫して居る。それ故其の二千年の流浪生活間、決して他民族に同化せず、世界に比類なき剛健の氣質を保持して居る。彼等は鞏固なる家族主義を以て國家を保ち、祖先崇拜、國粹尊重の特性を有す。ダビテ臨終の遺訓は同族結合の堅固なるを證するに足る、曰く

「吾々の家族以外の者に猶太人の統御を委かしては成らぬ。末代迄も吾々一家の者が酋長と成らねば成らぬ」

彼等は數千年間到る處で壓制虐待に苦しみたる爲め、剛健、忍耐、眞摯、勤勉の習慣性を養ひ、學術に秀で、智巧に長け、思考緻密にして研究心が厚い。其代り他民族に對する時は憎惡、憤恨、復讐の妄執絕る時なく、丁度虐められた繼子が、束縛せられた賤民の樣

に、常識を以て解する事が出來ぬ程の拗者と成り、殘忍、執拗、陰險、吝嗇、譎詐、奸佞の言動を敢てし、却て之を同族に對する德義と心得て居る。此の惡德の爲め彼等は世人より益々厭忌侮蔑せらるゝから、彼等の憤恨も亦た愈よ深くなり、宛然惡鬼羅刹の性格を露はす樣に成つた。此性格を充分呑込んで置かぬと、猶太政策や、行動の眞實相を了解することが出來ない。

猶太敎と基督敎とは元來其の源を一にし、同じエホバ一神を奉ずるにも拘はらず、不倶戴天の怨讐と成つた原因は、猶太豫言者が「遠からず神は天使を降し、猶太人を率て、世界を統一し、一神敎を流布すべし」と言つたのを信じ、天使の來降を久しく待つて居た。會ま基督出で來り「天使は吾である。吾は神の子なり」と獅子吼した。猶太經には「神は獨り猶太人のみを愛し、之に幸福を下す」とあるに、基督は「神は何人でも信ずる者を愛す」と改め、猶太の選民たることを打壞した。ソコデ猶太人は基督を僞天使なりとし、其の博愛主義を憎みて、之を羅馬代官に讒訴し、十字架上に磔殺した。夫より此の兩敎徒は互に反逆者なり、宗敵なりとして相嫉視し、前述の如き仇讐として相陷擠する樣に成つた。吾々の樣に猶太でもなく、基督敎徒でもない者は、側杖を喰て迷惑千萬であるが、左りとて身に降りかゝる災難は拂ひ除けねば成るまい。

猶太魂を培養した經典はモーゼの十戒、ダルムード及トーラを主なるものとする。モーゼがシナイ山上で神より受けたといふ十戒は左の如し。

「吾は汝の神エホバなり、汝を埃及より導き出したのは吾である。汝は吾以外何物も神とす可からず。休日を守り之を清淨にせよ。六日働き七日目は安息日とせよ。汝の父母を敬せよ。殺す勿れ。姦淫する勿れ。盜む勿れ。隣人に虚言する勿れ。隣人の物を貪る勿れ。云々」

猶太魂の眞髓たる聖書ダルムードを見れば、猶太人が神より選ばれた特別の愛民たることを誇り、他民族を賤み憎み、他を陷擠して自ら立んとする利己主義の民族たることを知ることが出來る。後章に擧ぐる猶太の政綱、政策は皆な此のダルムードに胚胎す、今ま左に其の概要を摘載す。

一、唯だ猶太人のみ神出選民である、他の人類は惡魔の子なり。
一、人間は動物より高等なり、猶太人は人間より高等なり。
一、唯だ猶太人のみ永存の値あり、他の人類は驢馬にも及ばず。
一、猶太人は人と名くる權利あり、非猶太人は豚と名くべし。
一、神は非猶太人を憎む程、驢馬や犬を憎み給はず。

一、非猶太人の善行は罪と認め呪ふべし、是れ誇らんが爲の行なればなり。
一、吾人は非猶太人に援助を乞ふ勿れ、我が利益の爲め彼に害を與ふべし。
一、動物を放逐し殺戮する如く、吾人は非猶太人を放逐し殺戮し、其の財物を利用することを得。彼等の所有物は我が遺失物にて所有權は吾に在り。
一、非猶太人が我が鎖細の物を盜むも死刑は當然なり、吾々が彼の物を奪ふは自由なり。非猶太人が穴に落るも引上るに及はず、其の穴に梯あれば之を取除き、傍に石あれば拾て穴に投ぜよ。
一、非猶太人の財產を管理するは吾人の權利なり。吾人は彼を生殺する權あり、「殺す勿れ、盜む勿れ」とは非猶太人を意味せず、彼を殺すには最高等者を選び危險少き時に於てすべし。
一、非猶太人の生命は吾人の掌中に在り、其の黃金は吾人の所有物なり。
一、吾人を故殺する非猶太人は全世界を覆滅すると同罪なり。
右の各項を見れば彼等が基督敎徒の虐壓に對し如何に怨恨し之を仇敵視し居るかを知ることが出來る
猶太經典トーラは全世界統一猶太王國建設の理想を左の如く歌つて居る。

イェルザレムよ起て
光を放て、其の光八紘に輝かん
諸國の王も汝の輝く方に
其の時汝は雀躍して悅はん
汝の皷動は高く、心臓も高く打たん
無窮の光榮は汝の頭上に在り
諸方の國民汝の光に向て來らん
諸國の倉庫は汝の許に集められん
四海の富は悉く汝の方に向ひ
外國の若者は汝の城壁を築き
外國の王は汝の僕と成らん
汝を迫害せし者の子孫は汝の前に屈服し
汝を輕蔑せし者は汝の足下に跪かん

右等の經典を信條とし數千年來陶冶せられた民族が、是迄如何なる行動を取り來りしや又將來如何なる事を企らみ居るやの事實問題に就き、以下逐次に其の政策を研究することとすべし。

第四章　猶太政策

第一節　巴里及プーラグ會議

猶太人は西紀一三五年故國を追はれ四散したが、ダビテの遺訓に遵ひ、他民族に統御せらるゝを欲せず、其の寄寓する他國内に猶太國家を造り、長老政治を以て結束して來た。其

の長老政治は時々國際高等會議を開き、其の民族が分散擴張するに從ひ、集會する國數も追々增加し、先頃倫敦會議に參集したものは三十七個國に及んだと云ふ。其の行動は秘密ゆゑ近代まで全く窺ひ知ることが出來なかつた、又多少之を察知する者が有つても「彼何をか爲し得ん、齒牙に懸るに足らず」として顧慮する者は無かつた。

猶太結社は種々澤山あるが、其の內、全世界猶太人同盟は醒眠社と稱し、何國の團体も之に加盟して居らぬ者は無い。其の社長モンテ・フィオレは伊太利生の猶太人にて英國に住し、女皇の寵を得て貴族に成つたが、是れがマッソン結社の有力で者猶太主義の功勞者である。又此同盟を計畫した猶太人クレミエーも佛國マッソンの有力なる領袖にて西曆一八四八年の二月革命には臨時委員となり、佛國大臣と成りし人である。巴里會議の時クレミエー醒眠社の主義目的を說き、他民族の風俗習慣に同化しては成らぬこと、地球上一切の富を猶太人の所有とするの日が近づきたることを述べ、世界を猶太世界とすべき抱負を高唱して同族を鼓舞した。

次てモンテ・フィオレは起ちて曰く

「吾人は何より先き出版界の權能を握る必要がある。諸君が貿易、資本等を壟斷せんとしても、それは徒勞である。吾人は先づ全世界の思想言論を操縦する爲め、全世界の

出版物を、吾々の手中に收めねば、我が統治思想は妄想に過ぎない云々」

クレミエーは更に起ちて曰く

「然り、若し黃金が第一の力ならば出版物は第二の力である。之を我掌中に握り、初めて我が目的を達することが出來る。吾々は狡猾敏捷なるゆゑ、金錢を占有し我が目的に利用することは容易である。

輿論、文藝、芝居等を盛に製造し、大政治新聞を利用し、人民をして、何を信じ、何を貴び、何を呪ふべきかを宣傳指導し、正邪毀譽を顚倒し、基督敎信仰を破壞し、彼等を墮落せしむる樣にせねば成らぬ。

吾人は非猶太人を自由に操縱することが出來る。彼等は喝采せられることを悅び、功名心に餓へ、瑣細の失敗にも落膽す。此性質を利用すれば、彼等を起すも倒すも自由自在なり。彼等は一見虎の樣に見ゆるも、內心は羊の如く輕卒極る阿呆である云々」

右巴里會議の大企畫は、當時の非猶太學者などは痴人の夢物語として冷笑し去り、顧慮する者も無かつたが夫れが著しく猶太人の奮起を促し、間もなく西暦一八六〇年プラーグ會議に於て立派な政綱として現はるゝに至つた。

プラーグ會議猶太政綱は素より絕對秘密で有つたが、英國レードクリフ博士の命懸けの

苦心に依て世に發表せらるゝ様に成つた。其の記事は當時各國語に飜譯せられ、到る處大反響を與へた。猶太人は之を見て大に驚き早速其の抹殺に努むると同時に、博士は氣の毒にも猶太人の毒手に斃れた。左に摘錄する政綱を、其後實施した猶太人の行動に對照し、現在世界の狀態に顧みて玩味すれば、其の事實なることは、歴然とし掩ふことが出來ない。

(1) 黄金を所有する事、黄金は萬事を達成する本なり。

(2) 印刷物を占有する事、著書、新聞雜誌の宣傳に依て非猶太人を墮落させ、馬鹿に化し、騷亂を起こさしむ。

(3) 自由思想、懷疑說、基督敎破壞の念を非猶太人に接種する事、是れ世界を混亂狀態に陷るゝ手段なり。

(4) 基督敎僧侶に挑戰し、彼等に嘲笑、誹謗、疑惑を被らしむる事。

(5) 基督敎學校の神學敎授を廢する事。

(6) 寺院所有財產を取上る事。

(7) 家族主義を廢する事。

(8) 玉座の守護、愛國心養成學校たる陸軍を廢する事。

(9) 陸軍嫌の人民に軍備反對熱を煽動勃發せしむる事。
(10) 國債、私債の募集を容易にする事、是れ彼等を陷れる罠なり。
(11) 取引所の振興を圖る事、是れ彼等を投機熱に陷れ財産を蕩盡せしむる手段なり。
(12) 非猶太人の不動産を破壞し、凡ての土地を吾が手に移す事。
(13) 手工業を大資本製造工業に換る事、是れ失業者を造る手段なり。
(14) 吾人は貿易及投機業を確實に掌握する事。
(15) 吾人は諸官職に就く道を開き、國家の立法者中に加はる事。
(16) 吾人に不利なる法律を廢し、有利なる法律を制定する事。
(17) 基督敎徒の財産、健康、生命を握る爲め醫師、辯護士の職に就く事。
(18) 非猶太勞働者の發達を圖り、之を跋扈せしむる事。
(19) 總て不平、革命を援くる事、是れ我が資本を増殖し、目的に近づく手段なり。
(20) 全世界の社會運動を指導し、同時に我が保守主義を堅持する事。

右の外結論に於て其の希望の具体化事項を述べて居る、其の概要左の如し。

(21) 此決議に從へば數百年の後、我が子孫は吾人の墓に來り「課命の誓約を果し、世界の王侯と成りました」と報告すべし。

(22) 他國民は漸次我が奴隷となならん、之が爲め吾人は貧民社會運動の味方と假裝し輿論の推移を指導せねば成らぬ。

(23) 民衆の盲目、空虚、大言壮語好と、吾人の人氣信用とは両刀の武器なり。

(24) 吾人は目的遂行の爲め勞働階級(プロレタリア)を保護する必要あり、是れ民衆を挑發雷同せしむる爲めなり。

(25) 吾人は革命の武器として民衆を使用す、革命毎に我が事業は長足の進歩を爲し、全世界統御の目的は迅速に達成すべし。

右は西暦一八六〇年議決したる猶太政綱である。爾來六十年を經過した今日から既往の世相を反省すれば、此政綱が如何樣に實施せられたかを證明し、悚然として恐れざるを得ない。佛蘭西、露西亞、波蘭土、土耳古の革命動亂あり、更に露亡ひ、獨斃れ墺崩れ、土耳古、希臘の帝王は追はれ、支那も亦壞敗せり。今や英佛も政治經濟の權は猶太人に握られ、現に米國にて猛威を揮ひ奮闘中なりと云ふ。外國の事は暫く措き、近く我が帝國に於て、政治に、敎育に、產業に、思想に、其他社會の流行物等に於て如何なる波動を蒙り居るや、右政綱の條項に照せば、遲鈍な吾々すら粟粒の膚に生ずることを禁ずることが出來ぬ。吾人は六千萬同胞中蹶起して其の救濟に邁進する義士を待つこと切ならざるを得ない。

第二節　シオン議定書の由來

プラーグに於ける猶太政綱は其後時代の推移と共に漸く増補せられ、更に新政策を生ずるに至つた、シオン議定書がそれである。プラーグ政綱は簡明で有つたが此シオン議定書は精密にして具体的手段を示して居る。之を讀めば猶太人が他の民族を征服し、其の理想實現の爲め、攻擊方面を各國家の內面に向け、其の手段が頗ぶる陰險卑劣なることが知れる。卽ち國家組織の缺點、就中人の弱點を遺憾なく穿鑿して、其虛に附込み、相手の無自覺を利用して、人心を己が思ふ壺に引入れ、國家を內部より崩壞せんとして居る。定住の國家なく、分散寄生の民族としては、其の理想實現の過程として止むを得ず此に至りたるならん。

猶太人は此議定書を反對者の僞作であると强辯するのみならず、日本人中にも之を信せずして彼等を辯護する學者もある樣子なれば、先づ此議定書の由來を略說し、其の僞作に非ざることを證明し置く必要がある。

シオン議定書は西曆一八九七年八月瑞西バーゼル市にて開いた猶太會議の議事錄にて固より絕對秘密のものである。露國政府は其の開催を知るや在伯林露國諜報機關長ラトウコフスキーに其の會議の內偵を命じた。ラトウコフスキーは直に一人の間諜をバーゼルに

派遣した。該間諜は間もなくバーゼル市に現はれ、此處にて猶太最高幹部の厚き信任を受けて居た一猶太人を巧に買收し、シオン會議終了後、該猶太人が、其の議事錄を猶太根據地フランクフルト・アン・マインへ傳送するを途中に待受け、間諜は豫め多數筆記者を集め置き、一夜の中に佛文議事錄の內容を寫取り、之を露國政府に納めたものである。

此議定書を初て露文に飜譯したのは、露國裁判官たりし法學者ニルスにて其の原書は貴族團長スホーチンの手を經て受取つた。スホーチンは其後間もなく猶太人の爲めに毒殺せられた。

ニルスは西曆一九〇一年該書を譯し、翌年其の第一版を公刊したが、其の發賣公告が出るや直く賣切と成つた、是れ秘密の手が悉く買占め一般讀者の目に觸れさせぬ樣にしたのである。之と殆んど同時に莫斯古ウェドモスティ新聞に其の抄錄を掲載した。ニルスは更に一九〇五年ツァールスコエセロにて第二版を出版し、又ジ・ブトミーも亦た「現代の禍根」と題し同書を出版したが、一般讀者の手に入つたのは小部で大部分はニルス第一版同樣の運命を繰返した。

西曆一九〇五年露國革命鎭定後、猶太人は此議定書を警察の反猶太宣傳であると盛に吹聽したが、書籍の出版年月は勝手に印刷することが出來るが、莫斯古ウェドモスティ紙に連

載した記事は警察の宣傳で無いことを反証して餘がある。

墺國ウヒヒッル博士の書に據れば、露國にて此議定書を書肆に送らうとして鐵道へ積込んだ時、武裝兵一隊現はれ、此書を押收して街上で燒棄てた。又ケレンスキーは莫斯古及ペトログラド兩都其他の書肆を調査し、議定書全部を押收した。翌一九一八年にノヴォチェルカスクにて發行の分も同じ運命に罹つた。夫故議定書の世に在るもの極て尠く、殊に露國は猶太人の天下ゆゑ今は一冊も發見する事が出來ない。

ニルス第二版一冊英國博物館に現存す。議定書の英譯が出來ると世間の注意が甚大なるゆゑ、其の保全の爲め印刷局より出版し、英國上下を震駭し、議論大に沸騰した。其後佛墺伊に入て幾多の波瀾を捲起し、終に獨逸に入り、西曆一九一九年の夏獨逸人ゴット・フリードに依て獨譯せられた。此書が猶太に征服せられ居る獨逸人を憤慨せしめしことは非常にて、外務大臣猶太人ラチューナの暗殺せられたのも、之が爲である。

米國にては矢張同年頃該書が司法省の手に入り、上院議員某等から該書出版の事が提議せられ、西曆一九二〇年出版したが、在米猶太人の猛烈なる抗議に依り製本全部破棄せられ今は唯だ華府國立圖書館に譯本一冊を保管するのみである。最近に至り米國自動車王フォードは其の著書に依り、議定書の事實なるを証明し、猶太人の辯解を反駁したが爲め、大に

米國人を警醒せしめたのみならず、其の聲が歐洲にも波動し猶太研究熱旺盛となり、殊に米國は今や猶太と非猶太との暗闘は各種問題に就て日に熾ならんとして居る。

我が國に於ては此議定書の拔萃某雜誌に出たことあれど一般人は素より政治家、教育家すら無頓著にて耳を傾くる者なく、甚しきは無稽の僞作なりと猶太人の大鼓を敲く學者あり。本書は今より約三十年前の議定書である。爾來世界の變遷、内外の推移に着眼すれば讀者は如何なる感想を起さるゝや、又假りに此議定書を僞作なりとしても、事實に於て其言の如く頽廢を見れば、之を放棄して顧みずといふ道理は無いと思ふ、お互に之を討究して救濟の道を講じたきものである。

シオン議定書は會議を重ねること二十四回、議定條項二百三十八箇條の大部のものである。此には其内に於て吾人に關係深き五十個條を拔萃することにした、其の全部を研究せんとする人は包荒子著世界革命の裏面に就て見られたし。

第三節　シオン議定書拔萃の一　(總体)

(1) 我目的は最早數歩の近きに在り、我標象(シンボル)の蛇の輪は其頭尾を接合せんとす。

(2) 人の性は多く惡なり、故に政治は學校式では良果を得ず、暴力と法律とを以て强制するに在り。

(3) 政治の自由は實際的のものに非ず、在野黨が在朝黨を倒す爲め民衆を欺瞞する時、此理想を甘く振廻す、若し政治家が眞に自由主義にかぶれ居らば、彼は其理想の爲に自滅す、何となれば自由解放に依て弛められたる政治は綱紀紊亂して收拾す可からず。昔は宗敎政治の時代ありしも、今は黄金が自由主義に代つて政治する世と成れり。

人民の自治も暫時なり、必ず放縱、內訌、紛爭を經て社會を燒燼となす。

(4) 自由、平等、四海兄弟の語は吾人の創唱なり、爾來此語は四方に宣傳せられ、眞の自由、平等、四海兄弟は消失せり。

(5) 自由、平等、四海兄弟は人間を狂喜せしめ、彼等は我旗を擔ぎ廻つて居るも、此語は到る處平和、安寧、協同一致を滅却し、國家の根抵を破壞し、其幸福を喰盡す蛆蟲なり、之に依て貴族の特權を撲滅する可能性を與へた。

(6) 非猶太貴族は政治的勢力旣に沒落したるも、大地主として尙ほ有害なり。故に其土地沒收の爲め土地に對する負擔を加重し農業を不振ならしむべし、奢侈に慣れたる彼等は速に敗壞す。

(7) 貴族は人民の利益幸福の擁護者なりしも、吾人は之を滅せり、今や人民は無慈悲な

る富豪、奸佞なる吝嗇家の壓迫下に陷りたり。

(8) 人民の權利は理想のみ、實際無用のものなり。饒舌家、新聞記者達の駄辯囈語を弄する權利が勞働階級に何の役に立つか、野心家の爲に一票を投ずる外に何物をも得るものに非ず。

(9) 國民が帝王を神聖視した時代には不平なく其の獨裁に服從せり。吾人が人民に權利の觀念を注入以來、國民は帝王を單なる人間視する樣に成り、又人民より敬神の念を奪ふや彼等は自由平等獨立を叫びながら、自ら生活の不安を招き、貧富の懸隔甚しく、却て不自由、不平等、不獨立の窮境に陷り、終に吾人の罠に罹り、無政府、共產などの自暴自棄と成り、其の權勢は吾人に占有せらるゝに至る。

(10) 各國の帝王を見よ無節制、無責任にして名利權勢に囚はれたる馬鹿代表者に遮られ、人民に接觸する能はず、又野心家に反抗して其の位置を强固にするの力もなく、君民共に其の扶を失ひ恰も杖を失ふたる盲目の如く成れり。

(11) 自由主義の國家に在ては無茶苦茶な權利が主張せられ、法律も爲政者も有名無實なり。斯る國家に於て新權利をせしめるには强者の權利を振ひ、既設の秩序規定を破壞し、法律を改め、官署を改造し、人民を我儘放縱にし、社會紊亂の極、最後には己

の實權をも放棄して止むを得ず吾々に依賴し來り統御者と仰がしめる樣に爲さゞる可からず。

(12) 吾人は社會人道、連帶同胞主義を唱へ、社會主義、無政府主義、虛無主義に勞働者を勸誘す、故に吾人は恰も勞働者の救濟主の如く見ゆるならん。

(13) 吾人が自由の毒藥を國家機關に注入したる結果、國家の全体に變化を來し、各國は壞血病に冒され、今や斷末魔の苦悶に陥りつゝあり。

(14) 自由とは法律の許す範圍にて行ふ權利なり。此解釋法は自由を吾人の掌中に握ることゝ成る、何となれば法律は吾人の希望通り、建設又は破壞し得ればなり。

第四節　シオン議定書拔萃の二　(思想)

(15) 政治は道德と關係なし、道德を以て政治せんとする者は政治家に非ず、政治には狡智虛飾を弄すべし、公明正大は失敗の基なり。

(16) 我が秘密政策は權力と僞善なり、政治には權力を以て勝を制す、壓制は原則なり。我が諜者に降服せざる者には狡智僞善を用ふ可し。

(17) 群衆を支配するには馬鹿げた議論でも彼等に面白相に見ゆれば大に行るべし、知識の理論的訓誡、辯論は三文の値なし。

(18) 自由主義立憲政治は軋轢、爭鬪、不和、黨爭、黨閥の學校なり。此學校は「國家の活動力を減殺す」との一語にて盡せり。議場は新聞雜誌以上に元首を無能力者に貶し、無用の長物たらしめ、遂に之を廢して大統領を据るに至れり、是れ吾人の仕掛たる地雷なり。

(19) 黨爭に左右せらるゝ國民は權利名譽の爭奪に依て自滅す。

(20) 吾人は野心家を煽動し、權力を濫用せしめ、其國家的團結を碎き、各政黨を對立せしめ、政權獲得を野心家の目標たらしめたり。又外交を以て强者の權力競技場たらしめたり。遠からず紛亂破產各所に出現すべし。

(21) 吾人が非猶太人を指導するには、人心に最も感じ易き物質慾に向て活動す、是れ人間を買收し、我が意志通り自由にする秘訣なり。

(22) 群衆は眞の生活及幸福を知らず、輕佻、亂脈、野鄙にして無智盲昧なるを以て是非善惡の判斷力なく人の聲に雷同す。此呼吸を呑込み置くべし。盲者は盲者を指導する能はず、群衆中の驅出者が如何に怜悧なるも眞政治を知らざるを以て、群衆を指導すれば必ず其の人民を滅亡に陷る。

(23) 貴族は勞働者を使用し、其の滿腹、健康、頑丈を望みたるも、吾人は之に反し其の

敗頽を喜ぶ。我が權力を强大ならしめんとせば、勞働者の營養不良衰弱に依て其の反抗力を消滅せしめざる可からず。

(24) 吾人は勞働者を無政府主義と飲酒に馴致し、巧妙深刻に產業の根柢を覆すべし。

(25) 吾人は目的達成の爲め全世界に絶ねず動搖、紛爭、憎惡の種を蒔くべし。

(26) 我が政策の眞相は非猶太人には觀察し能はざる如くせり。是れ吾々分散民族には、正道を以て達成し難きものを、權道にて達せんとする爲めなり。神が吾々選民を流浪せしめたるは深き神慮なるべし、吾人が全世界に散在すればこそ、吾人を全世界主權者の位置に導きたり。今や吾人の工事は殘す所僅少のみ。

(27) 如何なる共和政体も數階級を經過す、(一)盲目的狂騷時代、(二)群衆煽動時代、(三)無政府時代、(四)專制時代の如し、此專制は傍若無人の劇烈專制なり。

(28) 大統領にはパナマ事件の如き後暗い事をする者を選擧する樣運動すべし、左すれば彼は發覺を恐るゝと、特權、財產、名譽に嚙り付かんとする所より、吾人の忠實なる命令實行者と成る。

第五節　シオン議定書拔萃の三（言論機關）

(29) 一切の壞敗は吾人より生す、各種各樣の主義思想の人々卽ち君主制復興論者、煽動

政治家、社會主義者、諸空想家等は皆な吾人に忠勤を拔んでゝ居る。彼等は各自の立場より凡ての秩序破壞に努むるを以て各國は日に困憊しつゝあり、彼等は平和を願ひ居るも吾人は彼等が公然低頭して國際最高政府を認容せざる限り決して平和を與ふることなし。

(30) 饒舌家は議會を演説舌戰場と化し去り、新聞雜誌は毎日行政官を攻擊す、遠からず萬事は狂群衆の一擊下に顚覆せん。

(31) 印刷物の任務は、恰も國民の要求の如く書立て、人民の訴を傳へ、其不平を製造し、發表するに在り。今や言論機關は我掌中に歸し、其お蔭にて吾人は勢力と黃金とを贏ち得たり。

(32) 目下新聞雜誌は吾人の爲めに慾望、利己的黨派心を熾に焚付けて居る。新聞雜誌は空虛、不正、僞妄なるも多衆は之に致されて居る。吾人は新聞雜誌に乘て其の手綱を操つて居る。吾人は貴族主義、共和主義、無政府主義と種々の傾向を取り、混亂せる人心を煽動し、輿論を我目的方向へ誘致する、左すれば馬鹿者等は自黨新聞の主張と思ひ、或は自黨機關紙に追隨するものと思ひ居るも、何ぞ知らん彼等は吾人の立てたる旗を擔て躍り居るに過ぎず。

(33) 輿論を掌握するには各方面より種々の反對論を主張し、世人を迷路に立たしむべし。政治成功の秘訣は人民の缺點、習慣、慾望、生活方式を各種各樣に增加し、各黨派軋轢の種を蒔き、團結力を紛碎し、以て我事業を妨害する能はざらしむるに在り。

(34) 吾人は非猶太人の憤慨興起を阻止する爲め商工業競爭を以て彼等を惡魔化するのみならず、享樂、性慾、民衆倶樂部等にて彼等を牽制し、且つ其財產を捲上ぐべし、又新聞雜誌を以て各種の運動競技、藝術、軟文學の隆盛を謀るべし。此等の趣味は吾行動を妨ぐる道德より、人心を徹底的に牽制す。斯くすれば人心は次第に獨立思想より離れ、吾人と共鳴するに至る、何となれば新思想を提出するは吾々のみなればなり。

(35) 諸君吾人の破壞的敎義の成功を疑ふ勿れ、吾同胞の唱へたるダーヴィン主義、マルクス主義、ニッチェ主義の人心に及ぼしたる効果は其明証なり。

第六節　シオン議定書拔萃の四（經濟）

(36) 國家の滅亡は自滅に由るも內亂外患に因るも、滅亡は結局滅亡にして、國家が我權力に歸するは一なり。我資力專制が其國家に黃金の囊を延れば必ず之を掴む、掴まざれば滅亡す。之を不德義と謂ふ勿れ、兩交戰國間には功防密計、夜襲、寄襲等の

欺瞞は許され居るに非ずや、同理を以て敵社會の秩序幸福を破壞するも征服手段として不德義に非ず。

(37) 競爭は冷酷無慘の社會を現出す。此競爭社會には嚴正なる政治、宗敎を厭忌し、社會を指導する者は打算のみ、黃金のみ。吾人が物質的快樂を奬むるも亦た黃金崇拜と爲さんが爲なり。斯く成れば非猶太の下層階級は特權富豪に對する憎惡より吾人に追隨し來り、我競爭者たる非猶太上流者に反抗するに至る。

(38) 我計畫の妨害と成るものは敬神信仰なり。故に彼等の頭腦を商工業にて牽制し、各人が自己の利益のみを捜し廻り、利害に夢中と成て、共同の敵を顧みざる如くすべし。

(39) 此際投機事業を奬勵すべし、投機なき時は個人の資本を安固にし、土地に對する負債を免がれ、農業の勃興に資す。故に投機に依り土地より人手と資本とを吸收し、全世界の金が吾人の手に移る樣にし、以て非猶太人を悉く勞働者仲間に投込み、其末彼等は唯生存せんが爲め吾人の前に膝を屈するに至るべし。

(40) 自由の語を以て徹底的に非猶太社會を破壞し、頽廢せしむるには、工業を投機的にせざる可からず、斯くすれば其生產物を保管せずして投機に移し、我仲間の手に渡

ることゝ成るべし。

(41) 非猶太人の工業崩壊の爲め、其財布を空虚にする爲め、吾人の奬勵したる奢侈贅澤を投機の補助として相變らず流行せしめざる可からず。

(42) 賃銀値上は勞働者の利益とは成らず。何となれば之と同時に吾人は如何にも農業、畜產業衰退を憂ふるを口實とし生活必要品を騰貴せしむればなり。

(43) 吾人は黃金力と秘密策略とを以て一般經濟的危機を造上げ、各國勞働者を一時に失業せしむることを得。然る時は此等群衆は自己の馬鹿正直から兼々嫉み居る者の血を流さんと馳集り、其財產を掠奪す。吾人は其攻擊時期を豫知するを以て豫め防禦手段を盡し置き其禍に罹ることなし。

(44) 生活難は奴隷制度、農奴制度以上に人民を苦しむ、此兩制度は旣に解放せられたるも、貧困解說は不可能なり。

(45) 凡て國債は國家の無力と國權の不了解とを証明す。主權者は臨時稅を人民に課すれば可いのに、手を延ばして我銀行に憐愍を請ふ。外債は蛭なり、此蛭は自ら落るか國家が之をもぎ取らぬ間は離れぬものなり。然るに非猶太國は常に之を自體に吸付けて取らんとせず、故に逆る血潮に塗れて必然滅亡す。

實際國債とは如何なるものか、元利を包含する政府の信用手形なり。國債を五分利附とせば二十年後國家は元金と同額の利子を支拂ひ、四十年目には其二倍、又六十年目には其三倍を空しく拂ひ、而かも現金は其儘消却せられず、最後には一般課税に依り貧乏人から最後の一錢まで取上ることゝ成る。

內國債の間は金を貧乏人より富豪の懷に移すに過ぎざりしも、今日は外債を起し吾人の金を借入るゝを以て全國家の富が吾人の金庫に流込み、吾々に貢物を捧げて居る。

(備考) ○我日本帝國の國債は大正五年より同十三年迄の累計は左表の如し

大正五年	二四、六八億	大正八年	三二、七八億	大正十一年	四三、四一億
同　六年	二六、九九	同　九年	三七、七九	同　十二年	四七、三一
同　七年	三〇、五二	同　十年	四〇、七七	同　十三年	五〇、五一

此五十億の借金を五十年後の子孫に迷惑を掛けざる樣にするには取敢へず每年三四億圓の元利支拂を爲さゝる可からず、今日我國十五億圓位の歲計中より此三四億を引拔き得るや、若し之を能せざれば吾人は當座の贅澤の爲めに子孫に煩累を

殘すと謂ふも誣言に非ざる可し、放漫政策可ゝ恐々ゝ々）

第七節　シオン議定書拔萃の五　（理想國）

(47) 自由の標語は神權、自然力をも無視抗爭せしむ、故に吾人君臨の曉には此語を字典より除かざる可からず。猛獸は血を呑めば眠るに依り容易に鎖縛すべきも、群衆に血を與ふれは荒れ狂ふ。國家機關を適當に按排し、秩序を保ち、公明なる政治を爲し得る者は唯だ獨裁君主政治あるのみ。

(48) 到る處贈賄流行の社會に如何なる行政形式を取るべきや。放縱享樂は自由主義の學說に依て辯護せられ、富貴榮達は詐僞、奸計、情實に依て得られ、義務道德は酷刑嚴罰に依て保持せられ、愛國心、宗教心は功利主義と世界主義に依て抹殺せらるゝ現社會に如何なる政治を實行すべきや、曰く專制の外なし。故に吾人は中央集權を行ひ、政治活動を新律にて機械的に取締らんとす。此新律は從來の寬宥、我儘を逐次に取上げ、不平反抗の輩を隨時隨處に膺懲し得べき大專制を行ふに在り。

(49) 我獨裁政治は憲法廢止以前に到來するやも知れず。政府の不紀律、支拂不能、又は吾人の煽動に依り人民が「平和安寧を與ふる全世界王を與へよ、吾等は最早今日の爲政者、代議士等と一緒に平和安寧を得る能はず」と叫び出す、其時が卽ち獨裁政

治承認の時機到來なり。

人民をして斯る希望を述べしむるには絶えず各國に於て、人民と政府とを紛糾せしめ、之が爲め不和、抗爭、憎惡、果ては困苦、饑餓、癩病、生活難を以て疲勞困憊せしめ、我金力的主權に賴り來るより外に途なき樣にせざる可からず、若し吾人が人民に休息を與ふれば希望の時機は何時までも來ることなし。

(50)

ダヴィト王統の根を地球の最下層まで扶植するには我聖賢が今日まで隱然指導し來れる計畫に從はざる可からず。

全世界猶太王は己が情慾殊に色慾に動かさる可からず、色慾は人を獸的にし智能判斷を破壞す。

全世界の君主にして人類の支持者たる猶太王は一切自己の趣味を人民の犧牲に提供せざる可からず。吾人の君主は摸範的にして非難すべき所なき君子たらざる可からず。

第五章　結　論

猶太の理想は全世界猶太王國を建設して之を猶太人で統轄せんとするのである。其の手

段としては先づ黄金と出版物とを手中に收め、之に依て現社會を一時無紀放縦の魔界と變じ、人類の疲憊困弊に乘じて其目的を達せんとするのである。今や歐米各國に於ては其眞相を知り、之を排除せんとすれども、其勢力は政治、經濟、敎育、產業、思想等の各方面に瀰漫し、自主、自由、平等、享樂に浸潤せる歐米にては如何ともする能はざる狀態である。幸ひにして我帝國は彼等の最も恐るゝ君主國なるゆゑ、國基鞏く、君は仁に、臣は義である、固より彼等の覬覦を許さぬが、維新後吾人の採用した西洋文物には彼等の方策に成るものも尠くない、殊に西洋心醉者は自ら猶太化せらるゝを知らずして、自然と其の術中に陷りたる事も尠くない樣である。吾々は既往を顧み現在を視て、私に戰慄を禁ずることが出來ない。今や靑年學生、勞働者等の中には危險思想を懷く者も輩出し、一般の風俗も奢侈享樂に流れ、國家の前途を危くせんとする時であるゆゑ、諸君と共に猶太問題を研究するは決して徒爾に非ずと信じ、茲に其概要を拔萃した次第である。

猶太の破壞作業が顯著なる成蹟を收めたことは今日の全世界の思想及經濟の狀態、文明の行詰を見れば明かなる事實である。斯く容易に彼の政策が成功したのは、總て破壞といふものは何んな方法を用ひても容易に奏功するものである。殊に彼等の如く道德を無視し、人の弱點たる私慾を煽り立て、人々を放縱享樂に耽溺せしむることは、恰も高山より下谷

に大石を墮す如く容易のものである、一切の遮障物を壓到し加速率を以て墮落せしむるものである。然るに彼の建設的政策を見るに利己的、壓制的にて天地の公道に反するゆゑ、決して彼の理想通り成功する筈がない。眞の建國は我帝國の如く、彼我共に安寧幸福を得べき王道に由らねば成らぬ。

吾人は猶太政策を見て、彼の猾智に長するを惡み、彼の眞道を知らざるを憫み、其の建設的智能なきを笑ひ、非猶太人の彼等に致さるゝを悲しむのである。猶太政策に對し今假りに左の二十問題を設く。之に對し吾々は其兩端を叩き利害を竭くし、時處位に應ずる中道を探求し、以て先帝の皇謨に遵ばねば成らぬ。此問題の解決は迚も此に悉くすことは出來ないが、吾人は諸君と共に討論研究して猶太禍を免がれたいと思ふのである。

猶太政策に對する研究問題

(1) 法治國と德治國との利害
(2) 議會政治と專制政治との利害
(3) 政黨政派の利害
(4) 當局者攻擊の利害
(5) 陸海軍備の利害

---

(6) 國債の利害
(7) 王道覇道の別
(8) 出版物の利害
(9) 宗敎の利害
(10) 自由平等博愛の利害

(11) 拜金の利害

(12) 示威運動の利害

(13) 貧富貴賤の關係

(14) 名譽利益の觀念利害

(15) 投機の利害

(16) 奢侈と向上との關係

(17) 手工業と機械工業の利害

(18) 金力、腕力、智力、德力の關係

(19) 競爭の利害

(20) 公私の區分

右二十問題に就き現時の帝國に於ては如何に解決すべきや

附錄　マッソン秘密結社

第一節　マッソン社

マッソン秘密結社は「眞理の探求、道德の研究、聯帶責任觀念の養成を目的とし、自由平等博愛を標語とする團体なり」と云へば、如何にも立派なる修養團体と思はるゝが、實際に於ては恐るべき破壞的の秘密結社である。

元來マッソン社は中世期に於て熟練なる左官、石工、大工等の職工組合にて、英佛獨に於て發達し、宏大なる土木建築の工事を擔任したものである。然るに西曆第十七世紀に至り建築事業が衰へ、該社も衰廢に陷つたが、獨り英國にのみ存續し、是迄の職工のみに止まらず、素人の學者其他の知識階級の人々が入社することゝなり、漸々其の儀式や規則に改正を加へ、遂に純然たる精神的結社と變化した。其初め職工組合の時分は義務服從を專一として居つたが、今や變じて「全世界の人類が同じ宗敎を奉じて相互の離反を防ぎ忠實公明なる四海兄弟主義の人道を實現せん」とする樣に成つた。其人道實現の解釋方並に其手段として段々惡化し、左の如く

「マッソン結社員は謀反及革命を煽動する權利を有す、場合に依り自ら謀反する義務を有す。若し吾人が惡政府に對し武器を執て反抗出來ぬとなれば、神聖なる市民の義務を毀損すること丶成る。故に謀反は或場合に於ける神聖の義務なり。」

右の如くマッソン結社は謀反奬勵の團体と成り、全歐洲に發達し、其權利を振廻した爲め、各所に革命亂を勃發し、治安維持上各國は之を壓迫禁止した。然るに該社は秘密結社と成つて益々發展し、其組合は今日左の如く增加して居る。

英國	三、一五五組	四〇〇、〇〇〇
佛國	四七〇	三三、〇〇〇
獨逸	五五九	五八、〇〇〇
米國	一〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
全世界	二四、七八八	二、三五八、一四〇
合計	二九、〇七二	五、八四九、一四〇

右の外蘭、白、丁、瑞、葡、波、露、支、日にもあり

マッソンは世界到る處にて有力者、知識階級を引入れ其勢力を擴張しつゝあり、過去二百年間に於ける世界有名の人物にして同社員たる人々を見るに左の諸氏あり。以て其勢力

の偉大なることが出來る。

米國　ワシントン　マッキンレー　タフト　ルーズベルト
　　　バーシング　ハウス大佐　コムパース　ランシング
歐洲　ヴォルテール　ナポレオン　ポアンカレー　フランクリン
　　　マッチニ　ソンニノ　ダンチヌオ
東洋　遜逸仙　日本有名政治野心家及博士某々等

マッソン最高幹部カルチエー・ラ・タントウは西曆一九〇〇年八月卅一日巴里會議に於て該結社の目的を説明して(一)全世界マッソンの力を合一する事、(二)世界を紛亂に陷れる爲め、騷亂の依據點と成る事、(三)最後の目的は全世界共和國建設に在りと謂へり。

巴里第一回マッソン國際會議は西曆一八八九年七月十六七日佛蘭西大革命百年紀念の爲め催され、其席上にてもマッソンの目的は無神論的世界共和國建設に在りと道破し、當時演説者フランクリンは率直に

「第十八世紀（大革命のこと）をも有せざる各國にも君主政治及宗敎の沒落する日は遠からず來るならん。吾人は其日の一日も早く來らんことを努むる責任あり。」

と謂つて居る。斯の如く世界的同盟に依り全世界共和國を設立する手段としては、

一、民衆を煽動して從來の支配者に反抗せしむ、
一、君主政治を撲滅し、支配權を國民の手に移す、
一、最後に各國民の頭に立て世界を支配する者はマッソン社員の外に無し、
と謂つて居る。

第二節　マッソンと猶太との關係

マッソン社創立の時より猶太人は早くも其内に鞏固なる地位を獲得せんと試みたが、何時も拒絶せられ、入社することが出來なかつた。西曆一七八〇年頃フランクフルトに於て始めて二人の猶太人が其組合に入りたるも當時他の組合が承認しなかつた。其後段々緩和せられ入社を許す樣に成つたから、今日では該結社の重要なる地位は殆んど皆な猶太人に占有せられる樣に成つた。彼等は其結社に猶太政策を吹込み、該社を猶太の目的遂行に利用する最良の機關として居る。マッソン社が世界各國の思想を攪亂し、悉く共和政治と爲さんとするは、恰も全世界猶太王國を建設せんとする猶太の手段と合致するを以て、之を利用せんとするは猶太人の巧妙なる方術である。

猶太の眞目的を知つた以上はマッソン社員は、猶太の手先に器械とし使はれ居ることを憤り、反抗態度を取るべき筈なるに、多くの人が沈默して居るのは、一に其誓約に束縛せ

られ其制裁を恐れて居るからである。若し反抗態度を取れば其人は社會的地位を失ひ、經濟的打擊を受け、生命の危害を覺悟せねば成らぬ。マッソン社員フンデルは初め猶太人排斥に反對した人であるが、猶太の眞相を知つて左の如く其意見を變更した。

「マッソンは世界主義なるに拘はらず、猶太人は矢張猶太人として、他の民族を其の利益の材料と見做して居る。予は嘗て猶太人を虐げられたる民族と考へ之に同情したが今は反對に彼等が、吾人を虐げる者なることを知り、反抗的態度を取る樣に成つた」

第三節　マッソンと帝冠墜落

マッソンの事業は精神的より政治範圍に入り、現在の國家社會の秩序を破壞し、政治家と政黨とを漸次共和化せんとする樣に成つた。今回の大戰はマッソンの長き準備の試練にて其參謀本部は倫敦と巴里とに在り。

米國獨立戰も、佛蘭西大革命もマッソンの事業たることは其當事者たるジェッファーソン、ラファエット、ワシントン、ヴォルテール、モンテスキュー、ゴンドルセー、デデロー、ヘルヴェチノス、ダランベール、ダントン、ロビスピエール等が皆なマッソン社員なるを見れば明瞭なる事實である。

嘗てマッソン社員たりし普國大臣ハウグワイツ伯が西曆一八二二年ヴェロナ君侯會議に送

りたる有名な覺書に左の文句あり

「佛蘭西革命及其際行はれたる王の弑殺其他の慘事はマッソン結社最高指導部にて議定したる事にて、其宣誓の結果なる事に就ては確信を得たり云々」

土耳古はマッソン社の最も跳扈する國である、西曆第十九世紀に於て、其屬領は相踵て離反し、國王セリム三世、ムスタファ四世は共に弑せられ、アブヅルアヂツは廢せられムラド五世は追放せられたは皆な該結社の仕事である。青年土耳古黨も其初め成蹟擧らざりしが、マッソンの援助を得て其効果忽ち現はれ、土帝は之に對し如何ともすることが出來ぬ樣に成つた。是に於て青年土耳古黨は全部マッソン社に入り、其內猶太人が最も有力の地位を占め、土耳古革命を成就したのである。

世界大戰の導火線と成つた墺皇儲フェルヂナント公暗殺の計畫はマッソンの企にて、其下手人は猶太人プリンチップである。此計畫は西曆一九一二年佛國大組合にて決定したが暗殺實行者なき爲め實行せざりし事サラエヴォ裁判所にて判明した。

西曆一七八九年墺土戰はマッソンの仕事にて、其結果兩帝國は窮乏疲弊に陷つた。墺帝はマッソンの眞相を知り之を撲滅せんとしたが、其意を果さず、ヨセフ二世は四十九歲、レオポルド二世は四十五歲にてマッソン陰謀の爲め早世した。嗣帝フランツは西曆一七九四年

國內のマッソンを壓迫したるも帝室顚覆の陰謀は絶えず企てられ遂に此の大戰に及べり、此間幾多の大官が暗殺せられたことは言ふ迄もない。

露國女王エカテリナはマッソンの眞相を知り其解散を命じたが間もなく崩御し、其子パウル一世もマッソン禁令を出し間もなく弑せられ、次帝アレキサンドル一世も嚴令を以て凡ての秘密結社を禁じ三年の後マッソンの犧牲と成つた。西暦一九〇五年露國首相ストリピンはマッソン結社公認を拒みたる爲め猶太人ベグロフに暗殺せられ、同一九一七年ニコライ二世の虐殺も露英佛結社員の仕事である。

英國マッソンは他國と違ひ、自國に對し革命的仕事をせず、却て英國の利益に成る樣に外國の革命を援助するといふ特色がある。英國は從來陰に他國の內亂を助長し、謀反者に豊富なる資金を給す。英國豫算に五百萬磅の機密費を計上しあるは他國に對する宣傳、煽動に使用せられ、且つ外國の元首又は重要政治家の首に懸けたる賞金は其中より支出せらるゝといふ。

英國マッソンは最も有効に英國の世界統治策を促進せしめ、其帝國主義に反抗する國に對し大打擊を加へて來た、而して英國マッソンの組織は最も鞏固にして西暦一九一八年には倫敦に七百二十九組、地方に千七百四十九組、殖民地及外國に六百七十七組ありて互に連

絡す。

英國のマッソンが何故英國を共和政治にしないかといふに、英國は一六八九年以來事實上の共和國と成つて居るのみならず、君主國の形式を存する方が、陰然他國を攪亂するに色々の便利があるからである。又アングロサクソン主義も亦たマッソン主義も同じく世界統治を目的とし、利害が全く相一致するからである。斯る内情ある事に心付かず多くの我政治家が大英帝國の議會政治とか、大英帝國の立憲政治とか、政黨政治が憲政の常道であるとか、英國かぶれの政治論を主張するは我帝國の爲め慨歎せざるを得ないのである。今や世界は猶太とマッソンとアングロサクソンとの三者が化の皮を露はし、互に異つた目的を有しながら、共行動を共にして居るのでる。

右英、佛、獨、露、墺、土各國に於けるマッソンの活動を見て、吾人は如何なる感慨を起すべきや、殊に近く支那の狀況を觀て、如何に彼等が手を延ばして、我東洋を攪亂しつゝあるやに想到すれば戰慄を禁ずることが出來ない、矧んや我が學者、政治家に共結社員ありて、陰に彼等の大皷を叩き居る者あり又其説に雷同して秩序を破壞し、民主政治を謳歌する沒分曉漢も亦た尠からざるに於てをや。吾人は日本男子である、金甌無缺の帝國臣民である、徒らに西洋文化にかぶれずして先帝の皇謨を發揚する樣お互に奮發すべき時機で

はあるまいか、謹んで此に御相談する次第である。

295
365

大正十四年八月七日印刷
大正十四年八月十四日發行　第一版
大正十五年九月十八日印刷
大正十五年九月二十五日發行　第二版

【非賣品】

著作者
發行者　沖　孝
廣島市小網町十七番地ノ三

印刷者　瀨川常次
廣島市小網町十九番地

印刷所　瀨川印刷所
廣島市小網町十九番地

發行所　惟神勞働會
廣島市小網町十七番地ノ三